

## 救急車に関するアンケート

入力の状況

0%

[利用規約](#)  をお読みのうえ同意して、回答を開始してください。

利用規約に同意する 必須

回答を開始する

豊田市公式ページとして株式会社グラファーが運営しています。

株式会社グラファーはプライバシーマークとIS 689557 /  
ISO27001 及び CLOUD 806590 / ISO27017を取得しています。

## 救急車に関するアンケート

入力の状況

25%

### 回答入力フォーム

#### 回答者の情報

**年齢** 必須

回答者の年齢を教えてください。

15歳未満

15歳～17歳

18歳～30歳

31歳～49歳

50歳～64歳

65歳～75歳

76歳以上

**居住地** 必須

回答者のお住いの町名を教えてください。

(例：長興寺、西町など)

次へ進む

回答を一時保存する

豊田市公式ページとして株式会社グラファァーが運営しています。

株式会社グラファァーはプライバシーマークとIS 689557 /  
ISO27001 及び CLOUD 806590 / ISO27017を取得しています。



IS 689557 / ISO 27001  
CLOUD 806590 / ISO27017

[運営会社](#)      [利用規約](#)  
[よくあるご質問](#)

[Grafferアカウント利用規約](#)      [プライバシーポリシー](#)  
[Graffer スマート申請](#)   [ウェブアクセシビリティ方針](#)

## 救急車に関するアンケート

入力の状況

50%

### 回答入力フォーム

#### アンケート内容

これから始まるアンケートには調べたり、聞いたりして答える必要はありません。回答者自身の知識や情報のみで回答してください。

このアンケートが回答者自身の不利益になることはありませんので、わからない場合は「分からない」と答えていただいて問題ありません。

#### 1 救急要請経験 必須

今までに救急車を呼んだことや救急車で運ばれた経験はありますか？

ある

ない

## 2 救急車の出動件数 必須

豊田市の1年間の救急車の出動件数は、おおよそどのくらいだと思いますか？

1,000件（約3件/日）

5,000件（約14件/日）

10,000件（約27件/日）

15,000件（約41件/日）

20,000件（約55件/日）

25,000件（約68件/日）

30,000件（約82件/日）

分からない

### 3 救急車の到着時間 必須

豊田市の救急車が119番通報された方のもとに到着するまでの平均時間は、おおよそのくらいだと思いますか？

2分～3分

4分～5分

6分～7分

8分～9分

10分～11分

分からない

#### 4 救急搬送の結果の軽症割合 必須

救急車で運ばれた方の病気やけがの重さ、程度（重症度）の分類の中で、軽症の割合はどのくらいだと思いますか？

※「軽症」とは入院を必要としない状態をいいます。

※重症度の区分は「軽症」「中等症」「重症」「死亡」の4つがあります。

30%

40%

50%

60%

70%

分からない

#### 5 相談窓口 必須

救急車を呼ぶべきか迷った場合や病気、けが、医療に関する相談がしたい場合に、相談窓口を知っていますか？

知っている、利用できる

存在は知っているが利用するための情報は知らない

知らない

## 5-2 知っている相談窓口 必須

「5 相談窓口」（1つ前）のアンケートで「知っている、利用できる」または「存在は知っているが利用するための情報は知らない」と答えた方は、知っている相談窓口を教えてください。

とよた急病・子育てコール24～育救さんコール～

#7119

かかりつけ等の医療機関

その他

## 6 救急出動増加の影響 必須

救急車の出動件数が増えると豊田市民にどのような問題が発生すると思いますか？

※複数の問題を回答できる場合は「/」で区切ってください。

※思い浮かばない方は「分からない」と入力してください。

## 7 広報活動の認知 必須

豊田市の消防職員が行っている救急車に関する広報活動の中で、これまでのアンケート内容の情報を見たり、聞いたりしたことはありますか？

ある

ない

### 7-2 広報活動の認知「ある」 必須

「7 広報活動の認知」（1つ前）のアンケート（広報活動の認知）で「ある」と答えた方は、どこで見たり聞いたりしたかぜひ教えてください。

（例：応急手当講習、中央図書館の掲示物、広報誌、イベント時の消防出展ブース、学校の特別授業など）

※答えるのが難しい場合は「分からない」と記載してください。

次へ進む

回答を一時保存する

[«戻る](#)

豊田市公式ページとして株式会社グラファァーが運営しています。

株式会社グラファァーはプライバシーマークとIS 689557 /  
ISO27001 及び CLOUD 806590 / ISO27017を取得しています。



IS 689557 / ISO 27001  
CLOUD 806590 / ISO27017

運営会社      利用規約  
よくあるご質問

Grafferアカウント利用規約      プライバシーポリシー  
Graffer スマート申請 ウェブアクセシビリティ方針

© 2017 Graffer, Inc.

## 救急車に関するアンケート

入力状況

75%

### 回答入力フォーム

#### アンケートの終わりに、、、

貴重なお時間を使ってアンケートにご回答いただき、誠にありがとうございました。

最後に、アンケート内容の説明も含めて皆様に知ってほしい情報をまとめて記載します。

～アンケートの答え～

- 「2 救急車の出動件数」 → 20,000件
- 「3 救急車の到着時間」 → 8分～9分
- 「4 救急搬送の結果の軽症割合」 → 60%

※アンケート5-2の「#7119」は、豊田市では使用できません。

～救急出動は増えています～

豊田市の救急出動件数は21,722件/年（60件/日、市民21人に1人搬送/年）、救急車の平均到着時間は8.9分/年で、増加、延伸傾向です（令和5年統計）。

救急車の出動が増えると最寄りの救急車が対応できないケースが増え、救急車の到着時間が遅くなったり、受入医療機関の病床などがひっ迫して救急搬送が困難となる可能性があります。

～必要な対策～

増える救急車の要請に対応できるよう救急車や救急隊員を増やすなどの対策をする一方で、「未然に防ぐことのできる救急車の要請」を減らす取り組みも合わせて必要です。

～皆様へのお願い～

市民の皆様が、救急車の現状を理解し、急な病気、けがの際の移動手段やかかりつけ医療機関を予め決めておいたり、相談窓口の把握をしておくなど、市民一人ひとりが可能な対策を実施していただきたいと考えています。

「近くの救急車が出払っている」「出動できる救急車がない」このような事態が実際に発生し、自分自身や大切な家族が悲しむことのないように、救急車を適時、適切に利用し、みんなで命を救えるまちを豊田市民全員で目指しましょう。

### 自由記載 任意

このアンケートに関してご意見があれば、入力してください。

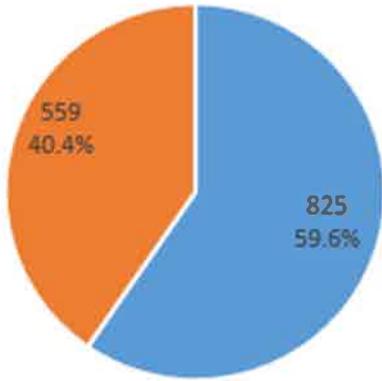
次へ進む

回答を一時保存する

[«戻る](#)

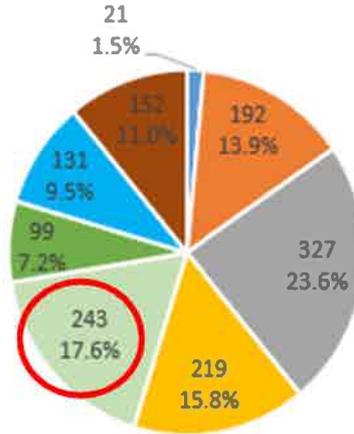
# アンケート結果

①救急要請経験



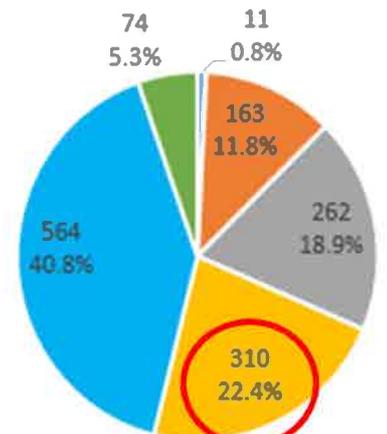
■ 1 ある ■ 2 ない

②救急車の出動件数



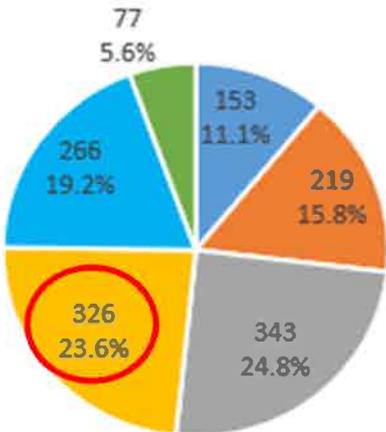
■ 1 11,000件 (約3件/日) ■ 2 5,000件 (約14件/日)  
 ■ 3 10,000件 (約27件/日) ■ 4 15,000件 (約41件/日)  
**■ 5 20,000件 (約55件/日)** ■ 6 25,000件 (約68件/日)  
 ■ 7 30,000件 (約82件/日) ■ 8 分らない

③救急車の到着時間



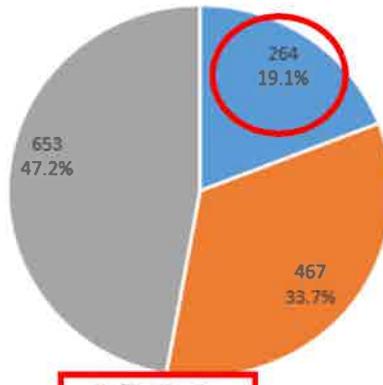
■ 1 12分～3分 ■ 2 4分～5分  
 ■ 3 6分～7分 **■ 4 8分～9分**  
 ■ 5 10分～11分 ■ 6 6分らない

④救急搬送の結果の軽症割合



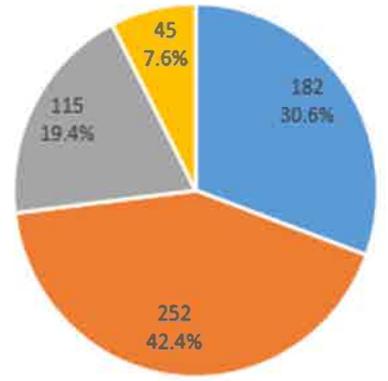
■ 1 30% ■ 2 40%  
**■ 4 60%**  
 ■ 3 50% ■ 5 70%  
 ■ 6 6分らない

⑤相談窓口



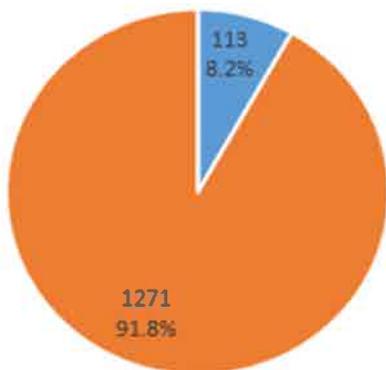
■ 1 知っている 利用できる  
 ■ 2 存在は知っているが 利用するための情報は知らない  
 ■ 3 知らない

⑤-2 知っている相談窓口



■ 1 とよた急病・子育てコール24時間～育児さんコール～  
 ■ 2 #7119  
 ■ 3 かかりつけ等の医療機関 ■ 4 その他

⑦広報活動の認知



■ 1 ある ■ 2 ない

豊田市民 3,056 人にアンケートを送付し、1,384 件の有効回答を得た。市民理解度は 20.6% と評価する。

アンケート⑥では「救急出動増加の影響」による市民への影響（自由記載）の主な回答としては以下のとおり。

- 重症患者への到着・処置が遅れる 64.8%
- わからない 20.9%、経費の増加、増税 6.5%、渋滞の発生 5.0%、その他 2.8%

救急車は限りある資源であり、迅速に市民のもとに駆け付けるため、令和 11 年度に市民理解度 50% を目指し、啓発を続けていく。